

多摩支部二十三回展 支部長 宮嶋ふみ子

本年度の支部展は、五月ゴールデンウィーク明けの七日からの一週間でした。支部員は新入会者が一名加わり、十四名となりました。出品者は十二名で二点づつの出品とし、作品サイズは十号に統一、展示は作品位置の公平上くじ引きとし、キャプションの位置や会場全体の色彩感の考慮など支部員各々の意見を尊重し、小さいながらも安心して見られるスペース造りを心がけ明日のオープンに備えました。

ご存知の通り当支部は、水彩の達人が多く、油彩に対し優しさと軟らかさ加わり、作品の良さを引き出すバランスの良い感じになった。七日間の入場者は約200名と他の支部に比べ少数ではありますが、反面来場者とのコミュニケーションがとれ、内容が充実し家庭的な雰囲気を感じることが出来ました。ある二人の方の言葉が耳に残りました。



「こんなに描けたらいいな、私もしてみたい、そしてこんな場所に飾れたら」と、さりげなく近寄り「なさってみませんか見ることが楽しいと思う方は、素直に描くことに入れますよ」と。そしてある先生をご紹介しました。もしかして、出品して下さるかもと期待し乍ら。

又ある方は「絵は上手に描こうとしないで、下手に描こうと思う気持ちが、一枚の絵に安心感が現れる」と。緊張らず自分の力に合った絵が本当の素直な絵ではと。でも支部の仲間の絵は一枚々々に力が入魂された力作に写るのは、身近な方だからなのかとも。

終わつてみますと次年度の問題点が(場所、部員数など)残りましたが、支部員の方々と相談を重ね良い方向に進めたいと思います。

遠路八王子までご来場下さった方々に紙面をお借りしお礼申し上げます。又会員の皆様には当支部に対し、又未熟な私にお知恵を授かりたく存じます。今後ともよろしくお願い致します。

シリーズ 画家伝 大石 亨 輝く光と色彩の画家 デュフィ

ラウル・デュフィは一八七七年六月三日、北フランスのセーヌ河口に近い港町ル・アーヴルで生まれた。父は金物屋に勤めていたが家は貧しく、兄弟は多く、生計は苦しい。中学を卒業すると、十四歳でコーヒー輸入商の店員となり、かたわらル・アーヴルの美術学校の夜間部に通い絵の勉強をした。

一八九九年、兵役を済ますと翌年、市から年額一二〇〇フランの奨学金の支給を受けてパリの美術学校に進学。だがデュフィは個展に興味を示さず、新しい絵画運動、印象派やセザンヌに傾倒、又ゴッホに強い関心を寄せた。その後、野獣派の運動にも加わり、マチス、ブラック、ドラゴン、ヴラマンクなども知り合った。しかし生活は苦しく、服装店でデザイナーの仕事をや

り、本の挿絵や図案の仕事までした。一九一四年、軍隊に召集され、一七、一八年にかけて軍事博物館付属の図書館に勤務。よく二〇年、プロヴァンスに移住して風景画を描き、二二年シチリア島に遊び、二六年にはモロッコに旅立った。プロヴァンス、シチリア、モロッコの旅でデュフィは新しい世界を発見した。後年、この世界がファンタスティックといつていいほどに形を変えて再生され、作品の中にあふれんばかりの光と色彩となつて登場した。

画家として定評を得たデュフィは三七年、万国美術工芸博覧会の電気館のため、八電氣と題する高さ一〇m、幅八〇mの巨大な壁画を制作。四〇年、パリ植物園の「猿の家」の装飾を手掛けた。次いで、パリ万博の巨大な装飾の仕事の最中、突然、リユーマチ性関節炎に襲われた。各地を転地して治療を受け、四九年長期治療のためボストンに渡った。

治療のかたわら制作に没頭。五〇年、J・アヌイの「八月の輪」の装置、五一年に二つの個展をやり、五二年にはヴェネツィア・ビエンナーレで国際大賞を獲得した。

五二年帰国。南フランスのアルプス山麓に農家を求めアトリエに改造して、ここに永住することとした。そのやさき五三年三月二三日、死去。享年七五歳。

編集後記 札幌在住の前田さんに制作や作品搬入出のご苦労などをご披露して頂きたくて原稿をお願いしました。北海道から出品して下さいという事だけでも頭が下がる思いがします。東京近在の方でも出品したいが搬入が大変又はお力ネがかかるということ躊躇する方もいます。150号・130号を自家用車に積み込んで、フェリーで1泊、更に仙台港から東京までではるか600キロ以上運転し、途中車の中で一泊して搬入するという強行軍です。搬出もまた同様の旅程となります。損得だけを考えたとしてもできない行動です。若さと強靱な情熱を感じます。どうか情熱が途絶えないよう祈らずにはいれません。小高

訃報

平井脩博さん H25年12月逝去
古川幸代さん H26年4月30日逝去
横山功雄さん H26年6月15日逝去
ご冥福を祈ります

スケッチ会次回予定

当日7時の天気予報で降水確率50%を超える場合中止します。

- 2014-7-26(土) 江戸城・東御苑 等 大手門前 10時集合
- 2014-8-9(土)国会憲政記念会館庭園 憲政会館レストラン前 10時集合
- 2014-9-27(土)三の輪鼠不動投げ込寺 地下鉄日比谷線三ノ輪駅 北千住寄り 改札口 10時集合

スケッチ会の実施報告と次回予定

事業部 一柳 幸

2014-4-19(土) 駒込六義園

天気晴朗 暖かくてスケッチには快適な日和だった。ここは柳沢吉保の開いた和歌を基調とした大名庭園であるとか。見事な庭園だ。スケッチのポイントが多くあるのが嬉しい。満月の夜、この庭を見ながらの一献はさぞ楽しかろう。ここの経費は大変だったろう。

「春爛漫殿様なんかにや なりたくネー」とひがんでも埒なからう。とは言えゆったりした気持ちでのスケッチ、幸せでした。



い。お歯黒どぶは暗渠(あんきょ)になったのか二間幅程の道路になっているが、なんとなく面影がしのばれる。大門はかつての場所に二本の柱が立っていて昔を想像させて面白い。山谷堀に舟は無く山谷掘り公園に続く道となって子供達が遊ぶ。日本堤の姿はなく町名に残り土手通りとなった。かような次第。だから絵描きにとっては魅力を感じさせ描きたくなる面白い街なのである。

「見かえり柳 五月の風が色っぽい」
今日は5人のサムライと美女1人、腕をふるってのスケッチで有終の美となった1日でした。



2014-5-17(土) 吉原大門見返柳 衣紋坂お歯黒 どぶ跡

かつて花柳の巷として名を馳せた浅草吉原あたりの、現在の姿はどうであろうかと、スケッチブックを片手に出かけてみるのも結構面白いものである。吉原大門交差点角に立つ見返り柳は、5月の風に揺られて絵心を誘う。衣紋坂は影も形もな